

果菜類の有機栽培環境下で発生した害虫

果菜類の有機栽培実証環境下の実証ほ場をセンター内に設置し、有機転換期間中に発生した害虫を調査しました。その結果、施設栽培では7種の害虫を、露地栽培では10種の害虫の発生を認めました。

これまで有機栽培ほ場でどのような害虫が発生するのかが、ほとんど調べられていませんでした。平成24年4月にセンター内に果菜類の有機栽培環境下で実証ほ場を設置して、平成24年4月から平成26年3月までにどのような害虫が発生するかを調査しました。

調査ほ場(約30a)の外縁3辺を風よけを兼ねたソルガム(5月中旬播種)で囲いました。また、ビニールハウス(83m²)の側面の開口部は目合い4mm、出入り口は目合い1mmのネットで覆いました。

その結果、表1に示した害虫の発生を確認しました。被害が大きい害虫は施設栽培のトマトのトマトサビダニとコナジラミ類、ピーマンのワタアブラムシとホオズキカメムシ、キュウリのウリハムシとサツマイモネコブセンチュウ、露地栽培ではナスのニジュウヤホシテントウ、キュウリのウリハムシでした。

表1 有機栽培転換ほ場の果菜類に発生した害虫

栽培様式	作物名 (栽培時期)	発生した主な害虫
施設栽培	トマト (3~1月)	タバココナジラミ、オンシツコナジラミ、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ハモグリバエ類、トマトサビダニ、サツマイモネコブセンチュウ
	ピーマン (5~1月)	ワタアブラムシ、タバココナジラミ、オンシツコナジラミ、ハスモンヨトウ
露地栽培	キュウリ (6~11月)	ワタアブラムシ、タバココナジラミ、オンシツコナジラミ、ハモグリバエ類、サツマイモネコブセンチュウ
	ナス (5~11月)	モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ニジュウヤホシテントウ、ホオズキカメムシ、カスミカメ類、カンザワハダニ、チャノホコリダニ
	キュウリ (5~8月)	タネバエ、ワタアブラムシ、ウリハムシ、ワタヘリクロノメイガ



トマトサビダニ



ニジュウヤシテントウ



ワタヘリクロノメイガ



ホオズキカメムシ

今後はこれらの害虫に対して、ネット等の物理的な方法や有機JASで使用が認められている農薬、在来の天敵を利用した防除手段等を試していく予定です。

問い合わせ先：資源環境研究部病虫科(担当：奈良井祐隆)、栽培研究部野菜科(担当：奥野かおり・金森健一) TEL：0853-22-6905 E_mail：noug@pref.shimane.lg.jp